

平成 24 年度 事業報告書

(第 21 期)

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 24 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 24 年 3 月の理事会・評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の通り実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 1,135 万円、修正予算額 1,150 万円）

本年度は、平成 23 年度に再開した助成事業の中で、年度計画通り以下の 2 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 24 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された書類を基にして 8 月 9 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案がまとめられ、12 月 6 日の理事会にて承認された。贈呈式は平成 25 年 3 月 6 日にホソカワミクロン本社にて開催され、14 名の受賞者の出席があった。

1) 研究助成（助成金配分額 860 万円）

本年度は 79 件の応募があり、その中から 14 件の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度になることを目指して、ホソカワミクロン㈱から 300 万円の寄付を受け、また関連経費を抑えることによって、当初予算額の 2 倍余りの助成を行った。

2) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度は 5 件の推薦があり、その中から岐阜薬科大学の竹内洋文教授に、「粒子設計を基盤とする新しい医薬品製剤に関する研究」の業績に対して KONA 賞が授与された。

II. 特定事業（事業管理費を含む実施額 735 万円、修正予算額 740 万円）

年度計画に従い、以下の 2 つのシンポジウムの開催、支援を行った。

1) 細川益男メモリアルシンポジウムの開催（実施額 635 万円）

平成 24 年 4 月 24 日の午後に帝国ホテル大阪にて、当財団の設立者である故細川益男氏の三回忌を迎え、Nanoparticle Technology Handbook 第二版の出版を記念して国際シンポジウム International Symposium on Nanoparticle Technology in memory of late Mr.Masuo Hosokawa を開催し 119 名の参加があった。同シンポジウムでは、KONA 誌の欧米ブロックの編集委員長他による 6 件の講演があり、活発な討論が行われた。

2) KONA Symposium 2012 の開催（実施額 100 万円）

ホテル日航倉敷で開催された第 4 回 ICCCI(International Conference on the Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials)の最終日 9 月 5 日(水)の午後に、同国際会議に引き続いて同会場で KONA Symposium 2012 を開催した。KONA 誌に

掲載された論文の著者より5件の講演があり、10ヶ国から40名の参加者があり、活発な討論が行われた。

III. 財団自主事業（実施額 746 万円、予算 740 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 354 万円）

「ナノパーティクルテクノロジーの応用最前線」をテーマとした第46回粉体工学に関する講演討論会を平成24年9月27日（木）にホテルラフォーレ東京で開催した。講演件数は6件、参加者数は141名（内訳：企業107名、大学・研究機関8名、講師・司会・ホソカワミクロン・財団関係者26名）で盛会裏に終了した。参加者の70名（50%）から得られたアンケート結果によると、今回の講演の中では、粉体工学を基にしたセラミックス製造科学の基盤技術、機能性ナノ粒子を用いたナノコンポジット薄膜とその応用などに特に関心が高かった。

この粉体工学に関する講演討論会は、2001年以来、「ナノ」のキーワードを継続してきており、関連テーマを継続する希望も多いものの、粉体単位操作や他の切り口からのテーマについての要望もみられた。なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長増田弘昭 京都大学名誉教授）に委託している。

2) 国際学術誌「KONA」の発行（実施額 392 万円）

KONA 誌 No.30(2013)を平成25年1月10日に発行した。本誌は、アジア、アメリカ、ヨーロッパの3ブロックの編集委員会で編集し、粉体工学に関する優れた研究論文、レビューを世界から集めて毎年発行し、粉体工学関係研究者、研究機関、図書館等に無償で配布している。なお、アジアブロックの編集は粉体技術談話会に委託している。

No.30は発行部数600部、総頁数288頁（No.29は284頁）、掲載論文数22編（アジアブロック5編、アメリカブロック7編、ヨーロッパブロック10編）であった。掲載記事の内訳は Review paper 13編、Original paper 9編、Information article 4編であった。KONA 誌はインターネットで公開されているが、冊子体も作成しており、冊子体は、アメリカブロックへ50部、及びヨーロッパへ150部、アジア諸国へ約100部、国内へは約280部送付した。

3) 年報の発行（実施額 5 万円、予算 6 万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 19(2011)は、平成23年度の活動状況を中心としたもので、研究助成が中断されていたためその成果報告書は含んでいないが、平成24年5月に発行した。なお、当財団の年報は平成20年以降は冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。

以上